

中川正春の永田町かわら版

2005/12/1 第244号

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館428号室 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○小泉さんとノムヒョンさんに国家主義を振り回されるのは、もう沢山

しばらく、海外出張が続きました。議運理事を中心にヨーロッパ議会との交流に参加し、続いて、民主党と韓国の大政党との定期シンポジウムに代表団の団長としてソウルに出向きました。

EU本部はベルギーのブリュッセルにあります。時の流れが緩やかで、中世の街のたたずまいが、新しいEU本部の建物とマッチできずに逡巡しているようなところは、今のEUの状況を象徴しているように思えました。通貨の統合や集団安全保障などが先行して進んできたヨーロッパの統合。これを、いよいよ憲法を制定して完成させようというところまで来たところ、フランスやオランダの国民投票では、否決されてしまったということ。トルコなど基本的にキリスト教国でない国の加入に抵抗する人々がいること。さらに、それぞれの民族固有の価値観や生き様が崩されていくことへの不安など、一部のEU議員の中には、将来のEUの政治的統合は、絶望的だと言い切る人もいます。しかし、副議長のカウフマン氏が言うように、第二次大戦後のヨーロッパが「自分たちの国土を二度と戦乱に巻き込まない。」と、堅く決意し、ドイツ、フランスの真の和解があるかぎり、統合はやがて実現すると確信を持って語る人々に感銘を受けます。

その後に訪れた韓国の閣僚との会談では、従来から次の大統領候補としてうわさされる(北朝鮮との)統一省チョン・ドンヨン長官の話がとても印象に残りました。「ヨーロッパは、何度となく争ってきたドイツとフランスが和解し、その二国が中心となって全体の統合まで話が進んでいる。アジアでは、民主主義と自由経済という同じ価値観に立脚して地域をリードする日本と韓国が手を携えてアジア共同体を目指そう。」体制を異にする中国よりも、本当は日本と一緒にアジアを一体化していきたいという秋波が、周辺諸国の目覚めたリーダーたちから日本に送られてきます。

一方で現実には惨憺たるものです。この会見の前日行われた韓国与党ウリ党との政策セミナーなどは、ケンカで

始まります。冒頭、韓国の議員達は、小泉さんの靖国参拝、教科書をめぐる歴史問題、竹島の領有権の問題を責め立てて、相変わらずメディアを意識した日本糾弾をします。「そうやって、あなた方が騒ぐほど日本では世論が右傾化する。さらに、皆さんが自分達の政治基盤を固めるために日本たたきをして、韓国国民のナショナリズムを刺激することもよくない。」というような趣旨の発言を私がすると、「小泉さんが靖国にこだわったり、島根県議会で竹島領有の決議をしたり、自民党の国会議員が戦争は正しかったなどと発言して、国民をたきつけるのは日本の方ではないか。我々を怒らすのは、いつも日本の行動なんだ。」といった話が返ってきます。

アジアの政治はいつまでこのような入り口の話で終始していくのか。ため息が出ます。話題を変えよう。テレビで人気の「チャングムの誓い」を妻と一緒にしっかり楽しんでいると言ったら、きついことを言っていた韓国の議員たちも皆、うなずいて嬉しそうな顔をするのです。

○身近な政治は住民の声を聴くことから

障害者用の駐車場の車椅子マークは、誤解を招く。車椅子を使わずに辛うじて歩く障害者や、目が悪い中でつきそってもらう人など、車椅子にこだわらず使いたい。若者の政治離れは問題。四日市大学で討論会をしよう。周辺の県では有害図書は排除ができていないのに三重県では野放し。ポルノ雑誌が三重県に集まってきている。中学校の給食について、もっと深く議論して、考え直してみよう。などなど、沢山の課題が指摘されました。先日、四日市で開いた2回目の民主党「住民の声を実現する会」での参加者の指摘です。

市議会から県会、国会まで、全てのレベルがそろって対応します。確実に成果が出せて、参加者の皆さんに政治の身近さを実感してもらおうと張り切っています。話の中身から、国会よりも、市議会、県議会の方が大変だと分かりました。早速に、市議会で調査費など付けて、ここでの問題提起が現実には走り出していることに頭が下がります。